

学生時代にやってきたこと

# くらもち 学生帳



自由

(フリーメートル)

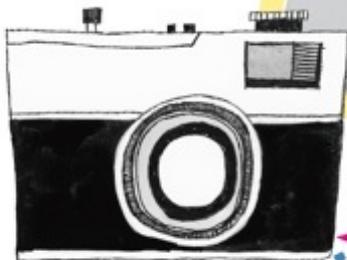
# がくせいちょう

ねん くみ なまえ 倉持 優



# 私が学生時代にやったこと

1. 長くコツコツ頑張りを続けること
2. 視野を広げること
3. 仲間と協力すること





# 長くはつはつ頑張りを続けること

水泳を14年、ピアノを8年、書道を7年。

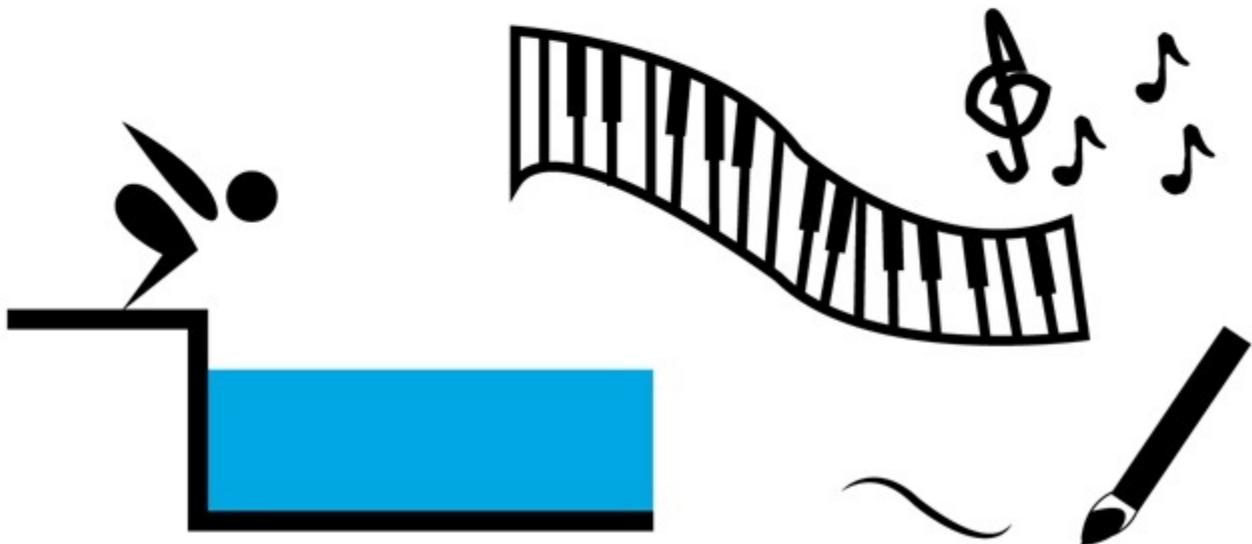
いずれも、幼少期から学生時代にかけて頑張ったと誇れることだ。

水泳を始めたのは4歳のとき。どんどん泳ぎが上手くなって、新しい泳法を覚えることが楽しかった。必然的にタイムを意識するようになり、競泳選手として練習に励むようになったのが、小学生に上がった6歳のときだった。小学生のうちは練習をすればするほど、面白いようにタイムが速くなった。地元には敵なし。小さな田舎町だったので、私はちょっとした有名人になった。しかし、経験を積み、大きな大会に出れば出るほど、当たり前だが私より速い選手は山ほどいた。負けず嫌いな私は、さらに練習に精を出した。その中で、自分は周りを比較対象にして結果を出すより、自分自身と戦って結果を出したほうが、自分らしい泳ぎができるということに気がついた。そして、中学生から高校生にかけて「東北大会連続出場記録を伸ばし続ける」という目標を掲げた。長くやっている分、壁にぶつかり、タイムが伸び悩む時期もあったが、陸上トレーニングを増やしたり、コーチとフォームの改善について話し合ったり、様々な方法で、その壁を乗り越えてきた。結果、粘り強い根性と上に向かって努力する向上心が身についた。

ピアノは今となっては疎遠になってしまったが、間違いなく今の私をつくったもののひとつだ。習い始めたのは、周りの友人の影響だった。弾けない曲があると悔しくて、苛立ってしまったたり、泣いてしまうこともあったが、それでも続けることができたのは、何度も練習して曲が弾けるようになったときの喜びを知っていたからだ。ピアノを通して学んだことは、辛さの中に楽しさを見つけることだった。

書道は、兄が習っていて自然と私も習うようになっていた。強制ではなかったが、一応習っておけば〜と軽い感じで母に勧められ、なんとなく始めた。今思えば、綺麗な字を書けるようになってもらいたいという親心からの勧めだったのではないと思う。思い入れもなく始めた書道だったが、今でも字が綺麗だと褒めてもらえることが多く、あの時習っておいて良かったと親に感謝している。また集中力が身につく、水泳や勉強など、何か集中して物事に取り組まなければならないときに活躍する能力として、今までの生活の中でも役に立っている。

これらを頑張ったことで、私はいくつもの賞状やメダルをもらった。世間的にはあまりすごいとは言えないレベルのものもある。しかしひとつひとつが私にとってはかけがえのない宝物であり、自分はこんなに頑張ってきたんだと今の自身を勇気付ける存在であり、自信を与えてくれる。





# 視野を広げること

とにかく、高校までは部活と勉強しかしてこなかった。また、田舎暮らしだったために、周りは田んぼで誘惑が少なかった。さらに私の家はインターネットもつながっていなかったため、YouTubeを知ったのは携帯を持った高校生になってから、というくらい世間知らずだった。大学生になったら、やりたいことを思うままにやろう！そう思って上京してからは欲求赴くままに行動した。

中国人の友人を頼りに1人で中国に行ってみる

韓国ドラマ、K-POP好きから韓国語を勉強してみる

韓国に行く

気になったイベントに参加してみる(リアル脱出ゲームなど)

YouTubeやインターネットにとことん触れる

舞台や演劇を観に行く

アルバイトをしてみる

引き籠もってみる…

正直、遊んでいるだけのようだが、いや、実際に遊んでいただけだが、その経験ひとつひとつに意味を見出していた。海外に出て、日本とは違う空気に触れてみたり、新しい語学を学ぶことで言葉を身につけることの楽しさを知ったり、引き籠もってみることで、人間は外に出て行動しないと駄目な人間になるなということに気づいたり、些細なことも私の視野を広げてくれた。今思い出しても、高校までの記憶は水に浸かっているか、陸で教科書とにらめっこしているかのどちらかしかしていないと言っても過言ではないくらいの世界観の狭さだったので、大学で行うことのほとんどが目新しかった。以前から客観的に物事を分析することが多かったが、その性格に磨きがかかった。自分の物差しだけでは計り知れないことがまだまだ世の中にはたくさんあることを知った。



友人主催のライトペインティングに参入 ↑

↓ 韓国旅行

アルバイト先でかわいいがらや ↓





# 仲間と協力すること

幼い頃から続けた水泳は、個人プレーの競技だったこともあり、私はできるだけ自分でできることは人を頼らずに行う癖がついてしまった。しかし、そんな私もチームで協力して頑張ることの大切さを学ぶ機会があった。それは、大学でのゼミナールでの活動だった。私の所属するゼミナールの課題で、チームで1冊の雑誌を作成することになったのだ。話し合いで、人々の生活にプラスを、幸せを与えられるような内容にしようということで、生活にプラスαと生活を豊かにしてくれている Ineed(私が必要とするもの)から文字って、『αinee(アイニー)』と名づけた。4月から5月にかけて企画立案を行い、6月から8月にかけて取材、レイアウト作成、9月ごろには仕上げをし、最終的に10月に行われた学園祭で展示を行った。

制作過程で友人に言ってもらった大事な一言がある。「もっと周りを頼って良いんだよ」この言葉をかけられた時、いかに普段から無意識のうちに、1人でやり切ることに重点を置いて行動しているかということに気づかされた。仲間と協力して何かひとつのことを成し遂げること、力を合わせてものづくりをすることは、大変だったが楽しかった。1人では分かち合えない喜びをみんなで分かち合うことができた。他人の力に頼りきるのはいけないが、1人の殻に閉じこもってはいけないこともたくさんある。頼ること、協力することの大切さを感じることができた経験だった。

